

日本語初級の「文法項目の組み合わせ」に関する試案 —「もらってあげてくれない？」多様な表現と応用—

平井一樹

甲南大学 全共通教育センター
神戸市東灘区岡本8-9-1, 658-8501

要旨

今まであまり注目されてこなかった初級レベルの2つ以上の文法項目の「組み合わせ」を幅広く提示し、初級文法だけでも多様で自然な表現が可能であり、幅広く応用できることを考察する。また、初級文法の組み合わせが上位レベルでの文法学習の重要な基礎となるのではないかという点を指摘する。将来的にこれらの「組み合わせ」を用いたソフトウェアや問題集・例文集の製作を目指す第一歩となることを目指す。

キーワード: 日本語初級文法, 組み合わせ, コロケーション, 文法コロケーション

1 はじめに

日本語の初級レベルの市販教科書で、最も使用されている「みんなの日本語初級 I・II」では、学習文法項目は約 90 ある。初級学習者は、個々の文法を習得し、文字・語彙、接続詞や副詞、表現（挨拶など）などを含め、知識（知っている）だけでなく、さらに運用が伴って、初めてそのレベルを身に着けたと言えるだろう。しかし、個々の文法はできたとしても、それらが単文の中に組み合わせられて出現したり、複文の前件と後件で複数出て来たり、新しい学習項目と一緒に使用することになると、学習者にとって一気に難易度が上がってしまう。

そこで本稿では、教科書「みんなの日本語 初級 I・II」の敬語を除いた 87 の文法項目を組み合わせ、その産出された「組み合わせ」の例文の考察を行うとともに、練習問題の試案やアクティブラーニングの提案を行う。初級文法の組み合わせだけでも、多様な表現が可能であることを示し、学習者の気づきやモチベーションの向上、上位レベルでの活用につなげることを目的とする。また、これらの「組み合わせ」を用いたソフトウェアや問題集・例文集の製作についても検討したい。

2 先行研究

「複数の文法項目の組み合わせ」という考え方は、これまであまり注目されていない。研究されてきたのは、あくまで共起制限やコロケーションとしての動詞と助詞（八木 1996）（中野・冨浦 2011）、動詞と名詞（中溝 他 2015）（劉 2017、2020）、複合動詞（杉村 2012）、多義語・多義動詞（する、ある、とる等）（麻生 他 2020）（大神 2021）（大神 他 2023）、オノマトペ（藤田・内田 2020）などであり、これらは現在まで膨大な研究が行われてきた。また、学習者や教師のための書籍として、コロケーションが理解・使用できるように近年多数の書籍が出版されている。（小野 他 2009）（中俣 2014）（山口 他 2018）（恵谷・飯嶋 2020）

文法の組み合わせについては、元東京日本語学校（長沼スクール）日本語講師である神部秀夫が以下の引用のように重要な言及をしている。（神部 2023）

「既習の文型、文法を組み合わせることの有効性 まず、一つ目の『みんなの日本語 初級』I、IIの修了時点で「学習者ができること」についてお話しします。次の二つの文を見てください（以下、「課」は『みんなの日本語 初級』の各課を指します）。

- ・ 息子は先週退院したばかりなので、まだスポーツができません。（46 課 [練習 B6 例]）
- ・ 先週給料をもらったばかりなのに、もう使ってしまいました。（46 課 [練習 B7 例]）

-----（中略）-----

「〈Vた形〉ばかりなので…」と「〈Vた形〉ばかりなのに…」とでは、後に続く文が全く違ってきます。それを考えて文を作ること、新出文型の「〈Vた形〉ばかり」の意味理解も深まりますし、また既習の「ので」「のに」の使い方も復習できて定着が図れます。繰り返しですが、新出文型の意味や機能を理解したうえで運用する、そして既習の文型の復習も兼ねて定着を図るといって大変効果的な練習例です。」

（ボールド、下線は原文のまま）（中略は本稿の筆者（平井）による）

上記からも、既に「みんなの日本語 初級 I・II」では、文法を組み合わせで運用することが意図され、神部が 2023 年の時点において、その重要性を指摘しているのは、意義深いことである。しかし、初級文法において、2つ以上の文法事項の組み合わせを総合的に把握し、上位レベル（初中級、または中級）との関連で詳細に考察した研究は、管見の限りでは見当たらない。

3 初級の文法項目の組み合わせ

本稿で使用する「文法項目の組み合わせ」という言葉の定義を具体例とともに以下に示す。端的な例として、「もらってあげてくれる？」という組み合わせが挙げられる。これは、授受表現のいわゆる「行為のあげもらい」であり、「あげもらい」自体の非対称性により、初級学習者の習得困難な文法項目の一つとしてよく知られている。「あげます、もらいます、くれます」の

3つを個別に学習し、個別に理解と産出が可能になった学習者であっても、次のレベルへ進級し、日常会話やカジュアルな文体の生教材の中に以下のような文章があった場合、どれだけ理解し、または学習者自身が使用できるかといえば、難易度はかなり高くなると思われる。

例1. 「友達の家でトマトがたくさんとれすぎて、困っているんだけど、もらってあげてくれない？」

また、伝聞の「そうです」と外見推察の「そうです」、推測・推量の「ようです」を一つの文(複文)に使うと以下の例となる。

例2. 「田中さんによると、スタバの新しいフラペチーノが美味しそうだったそうなんです
が、高くて買わなかったようです。」

次に、複数の初級文法項目が、隣り合った組み合わせとしても、複文の中に個別に出現する形としても、混在している例文を提示する。

例3. 「締切に間に合うように 書けと先生に 言われた ので、早く書くほうがいい と思っ
た。1日前に提出する予定のつもりだったが、とても書きにくいテーマで、これは自分には難
しすぎる かもしれない と思った。泣きながら、今、書いている ところ なのに、まだかと先生か
らメールが来た。ショックだったし、驚いたし、本当に大変だった。」

なお、「みんなの日本語 初級Ⅱ」には敬語も含まれ、敬語と文法項目を組み合わせると以下の例となる。(ここでの敬語は、尊敬語、謙譲語、丁寧語/表現を意味する)

しかし、学習者にとって、ウチ・ソト、親疎、場面、対人関係のシフトなどで変化する日本語の敬語システムは複雑であり、本稿では、組み合わせとしては、除外することにする。(ボールドでない下線部は、敬語以外の文法項目)

例4. 「部長、お急ぎのところ 申し訳ありません。昨日係長は、社長が、出張は来週でも よ
いかどうか お客様に伺っておいてほしいと おっしゃっていたと 言っております。ご存じでし
た でしょうか。」

つまり、本稿での初級の「文法項目の組み合わせ」とは、以下の通りとなる。

- ・教科書「みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ」の87の文法項目同士(敬語を除外)を組み合わせる。
- ・「組み合わせ」には、一つの文(単文、または複文)の中で、文法項目同士を隣り合わせる

場合と、離して使用する場合がありますが、両方を含めて、「組み合わせ」と呼ぶ。

- ・動詞のフォーム（〇〇形）は、ます形、て形、ない形、辞書形、た形、可能形、意向形、命令形、禁止形、仮定形、受身形、使役形、使役受身形の13のフォームとする。
- ・「現在・過去、肯定・否定」の語形変化があれば、「組み合わせ」で使用する。
- ・すべての文法項目で組み合わせができるわけではない。例として、「書く」という動詞を挙げると、「書いて」というて形のフォームに、「やすい」は当然組み合わせられない。
- ・本稿では、試験的に2つの文法項目の組み合わせを行ったが、3つ以上の組み合わせももちろん可能であり、日常会話やカジュアルな文章では、出現することがよくある。

3.1 表計算

「組み合わせ」には様々なやり方があるが、一つのやり方として、1つの動詞（13フォーム）に2つの文法項目を組み合わせる場合、つまり3つの要素の組み合わせを試してみた。なお、組み合わせた結果から例文を作成する際、文として成り立たせるために、2つ目の文法項目が動詞などを必要とすれば使用し、複文とする。

動詞のフォームが13、一つ目の文法項目が87、二つ目の文法項目も同じものが87あり、単純な計算では、 $13 \times 87 \times 87 = 98,397$ の組み合わせとなる。3要素の組み合わせを表計算ソフトを使って、作成した。関数だけでは非常に複雑になるため、© ExtendOffice Technology Inc. のウェブサイトにあるVGAによるマクロを使用した。以下の第1図がそのVBAのコードの引用である。

```
Sub ListAllCombinations()  
  'Updateby Extendoffice  
  Dim xDRg1, xDRg2, xDRg3 As Range  
  Dim xRg As Range  
  Dim xStr As String  
  Dim xFN1, xFN2, xFN3 As Integer  
  Dim xSV1, xSV2, xSV3 As String  
  Set xDRg1 = Range("A2:A13") 'First column data  
  Set xDRg2 = Range("B2:B87") 'Second column data  
  Set xDRg3 = Range("C2:C87") 'Third column data  
  xStr = "-" 'Separator  
  Set xRg = Range("E2") 'Output cell  
  For xFN1 = 1 To xDRg1.Count  
    xSV1 = xDRg1.Item(xFN1).Text  
    For xFN2 = 1 To xDRg2.Count  
      xSV2 = xDRg2.Item(xFN2).Text  
      For xFN3 = 1 To xDRg3.Count  
        xSV3 = xDRg3.Item(xFN3).Text  
        xRg.Value = xSV1 & xStr & xSV2 & xStr & xSV3  
        Set xRg = xRg.Offset(1, 0)  
      Next  
    Next  
  Next  
End Sub
```

※必要に応じて行と列の数字を入れ替えて使用してよいとの記述があったため、そのように変更した。

第1図 3要素の組み合わせの計算に使用したエクセルのマクロ（VBA）

© ExtendOffice Technology Inc.

3.2 組み合わせの結果

98,397 行の表を全て掲載することは、紙幅の関係上不可能なので、ここではその一部を例として掲載する。1 つ目の要素の「動詞のフォーム」には I グループの動詞「書く」を使用した。

第 1 表 組み合わせの結果の一部 (1 ~ 59 行)

動詞のフォーム (○○形) 例:書く	文法項目 1	文法項目 2	結果
1 書き (ます)	ます<現・過/肯・否>	ます<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + ます<現・過/肯・否>
2 書いて (て)	ますか<現・過/肯・否>	ますか<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + ますか<現・過/肯・否>
3 書か (ない)	ましよう	ましよう	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + ましよう
4 書く<現・過/肯・否>	ましようか	ましようか	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + ましようか
5 書いて (た)	に行きます<現・過/肯・否>	に行きます<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + に行きます<現・過/肯・否>
6 書ける (る)<現・過/肯・否>	て【て形】	て【て形】	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + て【て形】
7 書こう!	てから	てから	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + てから
8 書け!	ても	ても	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + ても
9 書くな!	やすい	やすい	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + やすい
10 書 (けば) <現・過/肯・否>	にくい	にくい	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + にくい
11 書かれ (る) <現・過/肯・否>	ながら	ながら	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + ながら
12 書かせ (る) <現・過/肯・否>	たい<現・過/肯・否>	たい<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + たい<現・過/肯・否>
13 書かせられ (る) <現・過/肯・否>	すぎます【過剰】<現・過/肯・否>	すぎます【過剰】<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + すぎます【過剰】<現・過/肯・否>
14	ています<現・過/肯・否>	ています<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + ています<現・過/肯・否>
15	て【理由】	て【理由】	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + て【理由】
16	てください	てください	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + てください
17	てもいいです	てもいいです	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + てもいいです
18	てはいけません	てはいけません	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + てはいけません
19	てあげます<現・過/肯・否>	てあげます<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + てあげます<現・過/肯・否>
20	てもらいます<現・過/肯・否>	てもらいます<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + てもらいます<現・過/肯・否>
21	てくれます<現・過/肯・否>	てくれます<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + てくれます<現・過/肯・否>
22	てやります<現・過/肯・否>	てやります<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + てやります<現・過/肯・否>
23	てしまいます<現・過/肯・否>	てしまいます<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + てしまいます<現・過/肯・否>
24	てあります<現・過/肯・否>	てあります<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + てあります<現・過/肯・否>
25	ておきます<現・過/肯・否>	ておきます<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + ておきます<現・過/肯・否>
26	てみます<現・過/肯・否>	てみます<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + てみます<現・過/肯・否>
27	てきます<現・過/肯・否>	てきます<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + てきます<現・過/肯・否>
28	て【順序】	て【順序】	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + て【順序】
29	ないで<無しで>	ないで<無しで>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + ないで<無しで>
30	ところ	ところ	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + ところ
31	ているところ	ているところ	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + ているところ
32	たところ	たところ	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + たところ
33	たばかり	たばかり	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + たばかり
34	なくなります【変化】<現・過/肯・否>	なくなります【変化】<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + なくなります【変化】<現・過/肯・否>
35	ことができます<現・過/肯・否>	ことができます<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + ことができます<現・過/肯・否>
36	ことです<現・過/肯・否>	ことです<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + ことです<現・過/肯・否>
37	まえに	まえに	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + まえに
38	と【条件】	と【条件】	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + と【条件】
39	つもり (で)	つもり (で)	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + つもり (で)
40	しろ!	しろ!	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + しろ!
41	するな!	するな!	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + するな!
42	とおりに【指示】	とおりに【指示】	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + とおりに【指示】
43	ようにします【努力】<現・過/肯・否>	ようにします【努力】<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + ようにします【努力】<現・過/肯・否>
44	ようになります【結果】<現・過/肯・否>	ようになります【結果】<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + ようになります【結果】<現・過/肯・否>
45	ために	ために	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + ために
46	のに (必要です)<現・過/肯・否>	のに (必要です)<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + のに (必要です)<現・過/肯・否>
47	場合は	場合は	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + 場合は
48	はず	はず	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + はず
49	予定です<現・過/肯・否>	予定です<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + 予定です<現・過/肯・否>
50	なります<現・過/肯・否>	なります<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + なります<現・過/肯・否>
51	なければなりません<現・過>	なければなりません<現・過>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + なければなりません<現・過>
52	つもりです<現・過/肯・否>	つもりです<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + つもりです<現・過/肯・否>
53	ほうがいいです<現・過/肯・否>	ほうがいいです<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + ほうがいいです<現・過/肯・否>
54	くなります【傾向】<現・過/肯・否>	くなります【傾向】<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + くなります【傾向】<現・過/肯・否>
55	くて (遅れました)【理由】<現・過/肯・否>	くて (遅れました)【理由】<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + くて (遅れました)【理由】<現・過/肯・否>
56	たことがあります<現・過/肯・否>	たことがあります<現・過/肯・否>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + たことがあります<現・過/肯・否>
57	たり、たり、	たり、たり、	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + たり、たり、
58	たら、てください	たら、てください	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + たら、てください
59	たほうがいいです<現・過>	たほうがいいです<現・過>	書き (ます) + ます<現・過/肯・否> + たほうがいいです<現・過>

第2表 組み合わせの結果の一部 (60~102行)

60	たとおりに	たとおりに	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + たとおりに
61	たあとで	たあとで	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + たあとで
62	た場合は	た場合は	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + た場合は
63	書こう! / 書きましょう!	書こう! / 書きましょう!	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + 書こう! / 書きましょう!
64	と思っています<現・過/肯・否>	と思っています<現・過/肯・否>	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + と思っています<現・過/肯・否>
65	ば	ば	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + ば
66	たら	たら	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + たら
67	なら	なら	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + なら
68	と	と	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + と
69	ば、ほど	ば、ほど	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + ば、ほど
70	書け! / 書きなさい!	書け! / 書きなさい!	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + 書け! / 書きなさい!
71	と思います<現・過/肯・否>	と思います<現・過/肯・否>	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + と思います<現・過/肯・否>
72	と言いました<現・過/肯・否>	と言いました<現・過/肯・否>	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + と言いました<現・過/肯・否>
73	と言っています/いました<現・過/肯・否>	と言っています/いました<現・過/肯・否>	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + と言っています/いました<現・過/肯・否>
74	でしょう/だろう	でしょう/だろう	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + でしょう/だろう
75	し、し、	し、し、	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + し、し、
76	かもしれません<現・過>	かもしれません<現・過>	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + かもしれません<現・過>
77	のは(面白い)です<現・過/肯・否>	のは(面白い)です<現・過/肯・否>	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + のは(面白い)です<現・過/肯・否>
78	のが(大変)です<現・過/肯・否>	のが(大変)です<現・過/肯・否>	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + のが(大変)です<現・過/肯・否>
79	のを(知っています)<現・過/肯・否>	のを(知っています)<現・過/肯・否>	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + のを(知っています)<現・過/肯・否>
80	ので/から【理由】	ので/から【理由】	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + ので/から【理由】
81	のに【反意】	のに【反意】	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + のに【反意】
82	か、どうか、わかりません<現・過>	か、どうか、わかりません<現・過>	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + か、どうか、わかりません<現・過>
83	んです【説明・強調】<現・過/肯・否>	んです【説明・強調】<現・過/肯・否>	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + んです【説明・強調】<現・過/肯・否>
84	ようです【推量・推測】<現・過/肯・否>	ようです【推量・推測】<現・過/肯・否>	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + ようです【推量・推測】<現・過/肯・否>
85	みたいです<現・過/肯・否>	みたいです<現・過/肯・否>	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + みたいです<現・過/肯・否>
86	そうです【伝聞】<現・過/肯・否>	そうです【伝聞】<現・過/肯・否>	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + そうです【伝聞】<現・過/肯・否>
87	そうです【外観推察】<現・過/肯・否>	そうです【外観推察】<現・過/肯・否>	書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + そうです【外観推察】<現・過/肯・否>
88			書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + ます<現・過/肯・否>
89			書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + ます<現・過/肯・否>
90			書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + ます
91			書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + ます
92			書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + に行きます<現・過/肯・否>
93			書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + て【て形】
94			書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + てから
95			書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + ても
96			書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + やすい
97			書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + にくい
98			書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + ながら
99			書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + たい<現・過/肯・否>
100			書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + すぎます【過剰】<現・過/肯・否>
101			書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + ています<現・過/肯・否>
102			書き(ます) + ます<現・過/肯・否> + て【理由】

第3表 組み合わせの結果の一部 (98382~98397 最終行)

98382			書かせられる<現・過/肯・否> + そうです【外観推察】<現・過/肯・否> + と言いました<現・過/肯・否>
98383			書かせられる<現・過/肯・否> + そうです【外観推察】<現・過/肯・否> + と言っています/いました<現・過/肯・否>
98384			書かせられる<現・過/肯・否> + そうです【外観推察】<現・過/肯・否> + でしょう/だろう
98385			書かせられる<現・過/肯・否> + そうです【外観推察】<現・過/肯・否> + し、し、
98386			書かせられる<現・過/肯・否> + そうです【外観推察】<現・過/肯・否> + かもしれません<現・過>
98387			書かせられる<現・過/肯・否> + そうです【外観推察】<現・過/肯・否> + のは(面白い)です<現・過/肯・否>
98388			書かせられる<現・過/肯・否> + そうです【外観推察】<現・過/肯・否> + のが(大変)です<現・過/肯・否>
98389			書かせられる<現・過/肯・否> + そうです【外観推察】<現・過/肯・否> + のを(知っています)<現・過/肯・否>
98390			書かせられる<現・過/肯・否> + そうです【外観推察】<現・過/肯・否> + ので/から【理由】
98391			書かせられる<現・過/肯・否> + そうです【外観推察】<現・過/肯・否> + のに【反意】
98392			書かせられる<現・過/肯・否> + そうです【外観推察】<現・過/肯・否> + か、どうか、わかりません<現・過>
98393			書かせられる<現・過/肯・否> + そうです【外観推察】<現・過/肯・否> + んです【説明・強調】<現・過/肯・否>
98394			書かせられる<現・過/肯・否> + そうです【外観推察】<現・過/肯・否> + ようです【推量・推測】<現・過/肯・否>
98395			書かせられる<現・過/肯・否> + そうです【外観推察】<現・過/肯・否> + みたいです<現・過/肯・否>
98396			書かせられる<現・過/肯・否> + そうです【外観推察】<現・過/肯・否> + そうです【伝聞】<現・過/肯・否>
98397			書かせられる<現・過/肯・否> + そうです【外観推察】<現・過/肯・否> + そうです【外観推察】<現・過/肯・否>

3.3 結果の考察

I グループの動詞「書く」(13 フォーム) と初級文法項目 2 つの組み合わせの結果から、10 の例文を作成した。(ボールド+下線の箇所以外は、筆者が自作したものである) その際、第 1 表の 1 行目の「書き」(ます形) + ます+ます のような正しい文として成り立たない組み合わせなど、作成不可能なものは除外した。例文の下にある組み合わせの結果の後ろに示した番号は、本来の表の行番号である。

1. 先に名前を 書きに行ってから、またここに来てください。
書き (ます) + に行きます <現・過/肯・否> + てから (355)
2. 漢字で 書きたいのは、いいことです。
書き (ます) + たい <現・過/肯・否> + のは (面白い) です <現・過/肯・否> (1034)
3. さっき 書いてあげたばかり なんですが。
書い (て) + てあげます <現・過/肯・否> + たばかり (9168)
4. 書いてあったとおりに 練習してください。
書い (て) + てあります <現・過/肯・否> + たとおりに (9630)
5. あの人にはメールを 書かないつもりだったのに、書いてしまいました。
書か (ない) + つもりです <現・過/肯・否> + のに【反意】 (19656)
6. 田中さんは、今年は年賀状を 書くかどうか分からないと言っていました。
書く <現・過/肯・否> + か、どうか、わかりません <現・過> + と言っています/いました <現・過/肯・否> (29827)
7. 手紙を 書いたほうがいいなら、書くようにします。
書い (た) + ほうがいいです <現・過/肯・否> + なら (34867)
8. 今、メールを 書こうと思っているところ です。
書こう! + と思っています <現・過/肯・否> + ているところ (50926)
9. そんなことは 書くなと思うかもしれません。
書くな! + と思います <現・過/肯・否> + かもしれません <現・過> (66718)
10. 無理に電話番号を 書かせられてしまった ことはありません。
書かせられ (る) <現・過/肯・否> + てしまいます <現・過/肯・否> + たことがあります <現・過/肯・否> (92778)

組み合わせの結果（第1表～第3表）を見るとわかるように、文法項目によっては組み合わせることができなかつたり、名詞句にする必要があつたり、過去や否定が使えない場合もあるなど、非常に複雑になっている。また、例文1では、「書きに行ってから」だけでは不十分で、「A：もう行くよ！ B：申込書を書きに行ってから！」のような会話にするか、例文のように「先に名前を」「またここに来てください」のような状況が推測できるような情報を加えないと理解できる文になりにくい。この組み合わせの表の作成結果から、実際の日本語母語話者の会話や文章で、どの組み合わせがどの程度使用されているのか、書き言葉コーパスや話し言葉コーパス、また、学習者の作文・会話コーパスなどでの調査の必要があると考える。

では、コーパスでの調査で使用頻度が高い組み合わせを示せた場合、学習者はどうすればこれらの組み合わせを習得できるのだろうか。個別の文法項目の習得は前提として、まず学習者が自律的に「この文法とこの文法は一緒に使えるのだろうか」、「文法としてはOKでも、日本語母語話者は、実際どのくらい、どんな場面で、どんなニュアンスで使うのだろうか」、「何か足りないな」、「なんとなくこれはおかしい、変だと感じる」といったメタ認知を駆使することが大切であろう。作文や会話などのアウトプットで実際に使ってみたり、ネイティブに聞いてみて、「ためらいや戸惑い、疑い」を感じるプロセスや体験が記憶の定着に役立つはずである。学習者はアクティブラーニングとして、クラスメイトと新しい組み合わせを発見する競争をしたり、日本語母語話者に使用の可能性や感覚を聞いてみるというような活動が考えられる。

初級文法の組み合わせだけでも、多種多様な文の作成が可能であることを示したが、初級クラスでは、個々の文法の習得に時間的にも学生の能力的にも精一杯だという現実がある。一方で、これらの組み合わせは、初級の次のレベルの教科書の本文や会話で、エッセイや雑誌記事、多読小説などという生教材の文章の中で自然に出現してくる。初級が終わった後で、このような組み合わせを十二分に運用練習しておかなければ、それらの本文や会話の内容理解が困難だったり、時間がかかることも予想される。当然、そこにはその新しいレベルの新出文法や新出語彙が追加されているため、それらの理解の妨げにもなりかねないと思われる。

4 おわりに

筆者のこれまでの経験では、例えば短期留学プログラムにおいて、来日までに初級（基礎）を既に学び、来日後のプレイスメント・テストでも8割くらいできた学生は、初中級あるいは中級クラスに入ることを大抵主張する。しかし、習得しているはずの初級文法が自由自在に運用できないために、上のレベルで苦勞することが多々あった。初級既習者の「やったつもり」「できるはず」によって後に生じる困難は、個々の文法や文字・語彙ではなく、それらの複合的な運用であり、4技能での様々なタイプの練習の機会や時間が十分取れていないことが原因だと思われる。上のクラスに行く前に、初級の復習と組み合わせ練習をするために、たとえ1か月でも時間が確保できれば、その後の学習の大きな助けとなるだろう。望むべくは、初級の後に、一つのレベルとして、初級の運用・応用クラスを設置すべきだということを主張したい。

初級文法だけでも組み合わせれば、結果の例文に示したような多様な表現が可能であり、非常に楽しく面白い挑戦であることを学習者に伝えたいと考える。それを自信と、学習継続のモチベーション向上などに役立てることができれば、初級日本語で挫折してしまった世界中の学習者に「初級だけでもいろいろな応用ができる」という励ましにもなる。

なお、今回は単純な3要素の組み合わせを行い、実際に成立しないものも含めて、98397もの結果が出力されたわけだが、それに基づいて、「書く」という動詞で、成立する文を作成したのは筆者自身である。実際の生活の中で産出される文は多種多様であり、また曖昧な表現や不完全なものもある。それゆえ、話し言葉や書き言葉別に使用頻度などをコーパスで検証することは必須である。そしてAIなどを使って、組み合わせの表から自動的に文を生成し、成立する文を判断して出力できるアプリケーション・ソフトウェアが製作できれば、学習の補助として大いに役立つであろう。また、「文法組み合わせ練習問題集」や今回の3要素で成立する組み合わせと文をすべて掲載した「例文集」のようなものを製作したいとも考えている。本稿は、教師の経験知としてはあったが、まとまった論考としてはあまり見受けられない初級文法同士の組み合わせに焦点を当てた試験的な試みであり、まだまだ不十分な内容ではあるが、今後の取り組みの第一歩としたい。

参考文献

- [1] 田中よね, 牧野昭子, 重川明美, 御子神慶子, 古賀千世子, 澤田幸子, 新矢麻紀子, 『みんなの日本語 初級 I・II』, スリーエーネットワーク, 1998.
- [2] 八木公子, 「初級学習者の作文に見られる日本語の助詞の正用順序: 助詞別, 助詞の機能別, 機能グループ別に」, 『世界の日本語教育』, 日本語教育論集 6 65-82, 国際交流基金日本語国際センター, 1996.
- [3] 中野てい子, 富浦洋一, 「日本語学習者の動詞選択における誤用と正用の関係: 作文支援のための基礎研究」, 自然言語処理 18 (1), 3-29, 一般社団法人言語処理学会, 2011.
- [4] 中溝朋子, 坂井美恵子, 金森由美, 「コーパスを利用した「抱く」と「抱える」の異同について: 名詞の共起状況を手掛かりに」, 大学教育, 12 53-64, 山口大学大学教育機構, 2015.
- [5] 劉瑞利, 「日本語学習者の『名詞+動詞』コロケーションの使用と日本語能力との関係」, 日本語教育, 166 (0), 62-76, 公益社団法人日本語教育学会, 2017.
- [6] 劉瑞利, 「中国語を母語とする上級日本語学習者の『名詞+動詞』コロケーションの習得: 母語との対応関係・コロケーションの頻度・共起強度の影響に着目して」, 博士(人文科学), お茶の水女子大学, 2020.
- [7] 杉村泰, 「コーパスを利用した複合動詞『V1-果てる』の意味分析」, 言語文化論集, 33 (2), 61-75, 2012.

- [8] 麻生迪子,菊池富美子,森田淳子,大神智春,鈴木綾乃,「日本語学習者横断コーパス (I-JAS) に見られる多義語コロケーションの分析 - 『きく』『でる』『つける』に焦点を当てて-」, 外国語教育研究, 23 38-56, 2020.
- [9] 大神智春,「多義動詞を中心語とするコロケーションの習得」,九州大学,日本語教育 166 (0), 47-61, 公益社団法人日本語教育学会, 2017.
- [10] 大神智春,鈴木綾乃,林富美子,麻生迪子,森田淳子,「日本語学習者による多義語コロケーションの理解:『ある』『する』に焦点をあてて」,外国語教育研究=JAFLE bulletin (26), 58-75, 外国語教育学会, 2023.
- [11] 藤田実智斗,内田ゆず,「多ジャンルの雑誌に出現するオノマトペのコロケーション分析」,第 82 回全国大会講演論文集, (1), 475-476, 情報処理学会, 2020.
- [12] 小野正樹,長谷川守寿,小林典子,『コロケーションで増やす表現 - ほんきの日本語』,くろしお出版, 2009.
- [13] 中俣尚己,『文法コロケーションハンドブック:日本語教育のための』,くろしお出版, 2014.
- [14] 山口久代,竹沢美樹,崔美貴,姫野昌子,「日本語能力試験 N1・N2 対策に役立つ! コロケーションが身につく 日本語表現練習帳 [第 2 版]」, 研究社, 2018.
- [15] 恵谷容子,飯嶋美知子,「基本語力アップ! 初級から学ぶ 日本語コロケーション」,くろしお出版, 2020.
- [16] 神部秀夫,「元東京日本語学校 (長沼スクール) 日本語講師 神部秀夫『みんなの日本語 初級』を使って、学習者が「できること」、「できなければならないこと」、教師が「留意すべきこと」 - 「日本語教育の参照枠」を参照し考える -」, 3A Plus日本語教育, 2023.07.25, <https://plus.3anet.co.jp/japanese-edu/koza041-01/>, (2024年1月2日閲覧)
- [17] 第 1 図, 出典: ExtendOffice Technology Inc. 「Excel で 3 列または複数列のすべての組み合わせを生成するにはどうすればよいですか?」, <https://ja.extendoffice.com/documents/excel/5891-excel-all-combinations-of-3-columns.html>, (2024年1月3日閲覧)